

リサイクル♥リユース♥リフォーム

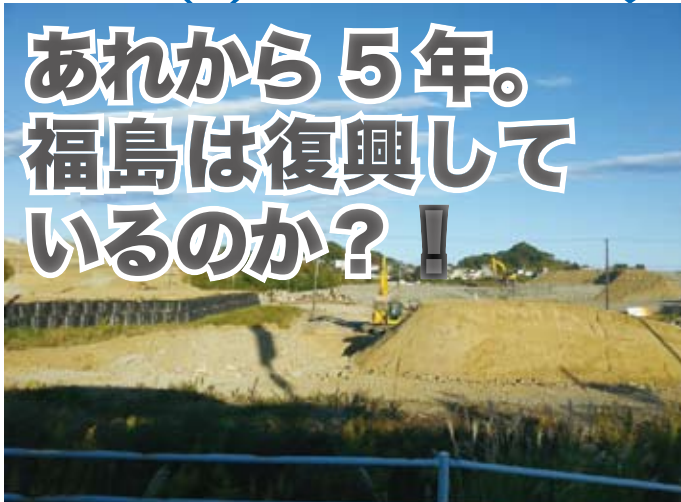
2016. 冬

WE21 ジャパンいずみ

1.2.3



あれから5年。 福島は復興して いるのか？！



東日本大震災とその後の東京電力福島原子力発電所の事故から今年で5年になろうとしています。「復興」という動きは出ているものの、本当に復興は進んでいるのか？福島に暮らす人たちはどんな問題に直面しているのか？放射能汚染は？などを知るために、福島県いわき市ツアーに参加しました。

秋晴れの日、私たちはいわき市に向かいました。到着早々、10年前から連携しているNPO法人ザ・ピープルが企画している「企業組合おてんとSUN」を訪問しました。古民家を活動拠点としたオーガニックコットン栽培から、Tシャツやタオル・ハンカチ制作販売、太陽光・風力発電、天ぷら油を燃料とする自然エネルギーについて学びました。市民が中心で運営しているおてんとSUNの未来を諦めないパワフルなリーダー達に会い、元気を頂きました。

その後、執筆や講演などの復興支援活動が続ける猪狩弘之さんを案内役に、津波と原発の二重被害地域（富岡周辺）や小学校の校庭に出来た復興商店街（浜風商店街）を回りました。富岡周辺では壊れたままの商店街、建てたばかりの家屋や放置された車、落ちた瓦屋根、干したままの洗濯物、草だらけの校庭など、かつては人々が普通に生活していた町がゴーストタウンとなっていることに大変衝撃を受けました。

桜並木の紅葉、たわわに実る柿などの自然が物悲しく、原発事故で儲かる企業や放射能数値が高い中、除染作業を続けるトラックや工事の人々が働き、ガソリンスタンドだけが営業している現実は、すべて人災なのだとしり涙が出ました。



こんな福島の現状にも関わらず、次々と原発が再稼働しています。人間はなんて愚かなのでしょうか。2020年の東京オリンピックのために

すべて覆い隠そうとしている現政府に対して、私たちが未来の子どもたちに残してあげられることは何かを真剣に考えなければと思いました。そして、福島の人たちのことを自分のこととして捉え、ツアーでみた光景を忘れずに、多くの人に語っていきたいと思います。

理事 芝宮清美



ツアーの参加者

3・11を忘れない！

3月は「東日本震災復興支援
キャンペーン月間」

3月11日の売り上げは、福島の子どもの心のリフレッシュ事業に支援します。また、被災地の加工食品の販売や店頭募金にも取り組みます。大震災や原発事故から5年になり、徐々に記憶も薄れ、関心も少なくなってきました。被災地の人や原発被害の人たちに皆さんの思いを届けましょう！皆さまのご参加をお待ちしております。

